

麦づくり情報(No.6)



1. 麦作況情報田の生育概況(3月20日現在)

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (L)	葉色	概況
川副	サチホ ゴールデン	本年値	12/1	29.6	1201	7.6	50.3	草丈は昨年よりやや高い。 茎数は昨年より多い。(145%) 葉令からみた生育は 昨年より遅い。
		昨年値 ※参考	12/10	25.8	829	9.2	42.2	
大和	シロガネ コムギ	本年値	11/27	37.5	1051	8.1	48.9	草丈は平年より低い。 茎数は平年より多い。(155%) 葉令からみた生育は 平年とほぼ同じ。
		平年値	11/29	42.8	678	8.2	42.8	

生育は、2月までの低温の影響から平年より遅れている傾向にあったが、3月以降気温が暖かく推移したことから、平年並みとなっている。今後の気温が平年並みで推移すれば、出穂時期は、平年並みとなる見込みである。

2. 今後の管理

○小麦の穂揃期追肥

※シロガネコムギは葉色が SPAD40 以下の場合のみ N:2kg/10a を施

タンパク質含有率を確保するため、**穂揃期**（全体の8割の穂が出穂した時期：圃場の外から見た時に穂が少し見え始めた頃）追肥を、**遅れないよう確実に施用する。**（施用時期が出

品 種	窒素量	実肥の施用量（※大豆跡も同量）
チクゴイズミ	2kg	硫安 10kg または 尿素5kg
ミナミノカオリ	4kg	硫安を 20kg または 尿素 10kg

穂 18 日以降になると、タンパク質含有率向上効果が低下する)

※極端に葉色が薄い（SPAD 値 40 以下）圃場については、早め（出穂始めから穂揃期）に窒素施用量を基準より 0.5kg 程度増やして施用する。

○病害虫防除(赤かび病) 予防効果が主体（散布時期が遅れないよう各圃場の状況確認を）

◆大 麦

- ・ 葯殻抽出始め（＝出穂期の約2週間後）に防除

※多発生が予想される場合は2回実施（1回目防除7日後）

- ・ トップジンM水和剤を使用する場合は、収穫前30日前までの使用となっているので注意する。

◆小 麦

- ・ 開花期～開花最盛期（＝出穂期の約10～14日後）に防除

※発生が多い場合は2回目の防除を実施（1回目防除の10～20日後）。

※大麦の採種圃は、

出穂期～穂揃い期に網斑病対策（チルト乳剤等）および葯殻抽出期に赤カビ対策（トップジンM水和剤等）を行う。

【情報田における出穂期】

○サチホ（12/10 播種）・・・昨年：4/8 出穂

○シロガネ（11/29 頃播種）・・・平年：4/12 出穂（昨年：4/9 出穂）

大麦の芒(のげ)の下から
黒い **葯 殻** が出る時期に防除



○排水対策

3月に入り、降水量が多くなってきたことから、排水不良の圃場が散見される。排水溝付近の障害物等を除去する、溝を掘りなおすなどの整備を行い、圃場内に滞水しないようにする。

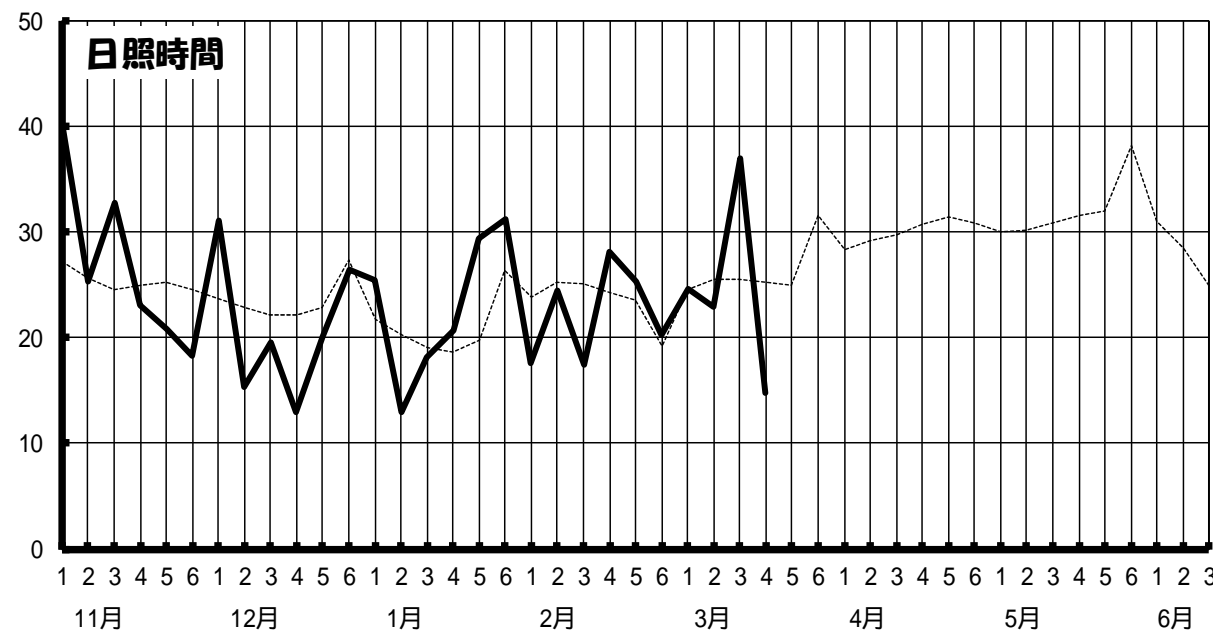
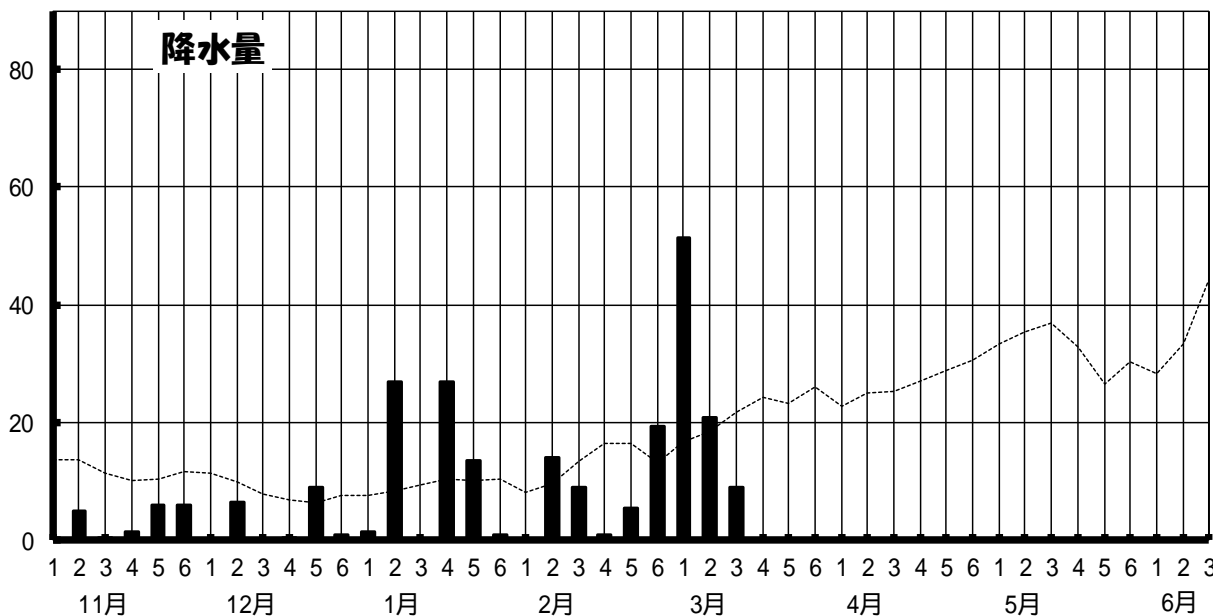
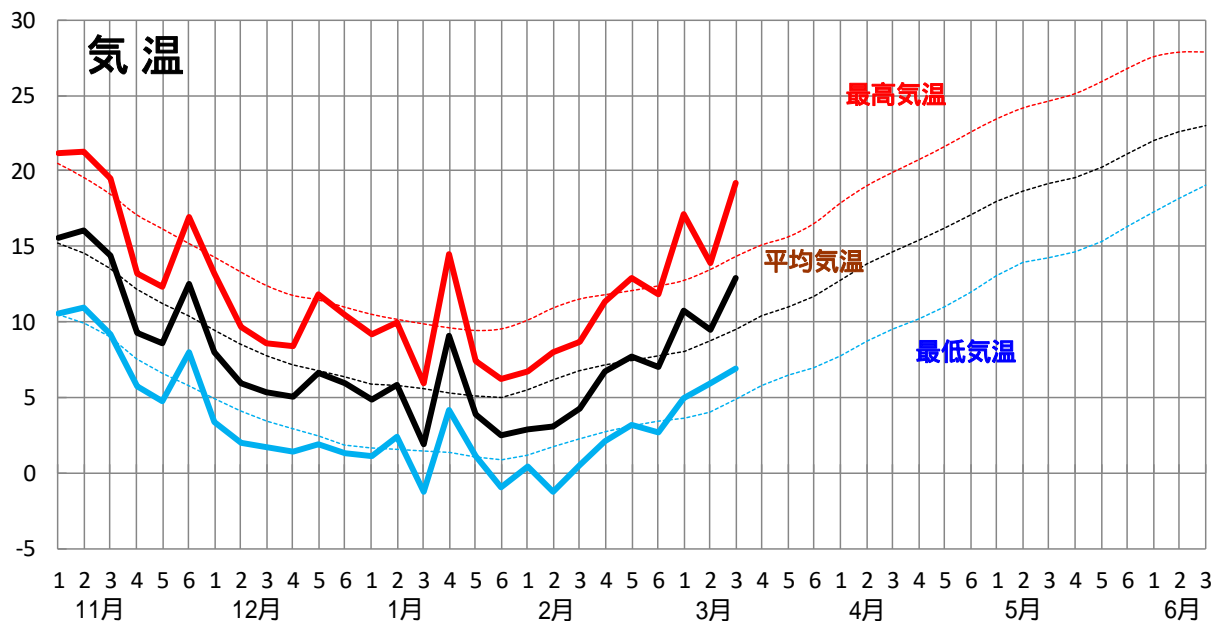
排水溝へ水が抜ける
状態が確認を！！



30年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値